



BHUTAN

学校名：東京都立大島高等学校定時制

氏名：遠藤圭

[担当教科：] 国語

- 実践教科等：国語
- 時間数：3時間
- 対象：高校1～4年
- 対象人数：14人

[1] 単元名

ディスカッション『幸せについて考える』

[2] 単元の目的/目標（ESDの能力・態度）

- 客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を考える力を養うこと。
- 人や世界の広がりを理解して尊重する態度を育むこと。
- 根拠を明らかにして自分の意見を発表する論理的な力を養うこと。

[3] ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

[4] 単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の 観点と方法
1	- ブータンの地理・文化・憲法など一般事情について学ばせる。 - 開発途上国に対する援助について考えさせる。	- ブータン概要紹介 - ブータンクイズ - ワークシート「バーン村にて」	パワーポイント ワークシート	内容を理解している。 【発言の内容・提出物】
2	- ブータンの医療事情を紹介し、「医療費無料」のメリット・デメリットについて意見を述べさせる。 - ブータン人の考え方とゴミ問題を紹介し、「なるようになる」という発想のメリット・デメリットについて意見を述べさせる。	ディスカッション 「病院は、有料であるべきか？それとも、無料にするべきか？」 「『これでいいのだ』『これではよくない』今、日本に必要な考え方はどちらか？」	パワーポイント ディスカッション・リアクションペーパー	主体的に活動に取り組んでいる。 【発言の内容・提出物】
3	- 発展が進んできたブータンに生まれた問題点を紹介し、「幸せと開発は両立するか」という問いについて考えさせる。 - 発展学習として島嶼地区である伊豆大島の開発について意見を述べさせる。	ディスカッション 「『幸せ』と『開発』どちらを優先して考えるべきなのか？」 「大島の『幸せ』にとって、『開発』は必要か？」	パワーポイント ディスカッション・リアクションペーパー	主体的に活動に取り組んでいる。 【発言の内容・提出物】

[5]授業の詳細

※ 本単元は、主にパワーポイントを教材として展開した。
現地で撮影した写真と、その説明のコメントをまとめたものを使用した。

1 時限目：【ブータンの地理・文化・憲法など一般事情について学ばせる。開発途上国に対する援助について考えさせる。】

(参考スライド)

○ ブータン一般事情の確認事項

- ・ ブータン王国の地理関係
- ・ 民族構成
- ・ 民族衣装
- ・ ブータン料理
- ・ ブータン王国憲法
- ・ GHN
- ・ 総人口における僧侶の割合



○ 上記事項の確認をスライドで行った後、クイズを通してブータンを知る取り組みを行った。

Q1、2008年、ブータンは王政から民主主義へと移行しました。言い出したのは誰でしょう？

- 1 農民 2 政治家 3 王様

Q2、ブータンで一番の名誉官位「ダシヨー（最高の人）」を唯一与えられた外国人は日本人である。

○か×か？ (正解 ○)

Q3、ブータンにおける危険な動物！この中で、「もっとも危険が少ない動物」はどれでしょう？

- 1 野犬 2 寄生虫 3 人間

Q4、所変われば物の価値も変わる？「日本では価値があるのに、ブータンではそうでもないもの」は？

- 1 トリュフ 2 マツタケ 3 冬虫夏草

○ ワーク学習「バーン村にて」

ようこそバーン村へ。
私は、以前この村に訪れたことがある、日本の大学生です。名前は、アイ子といいます。

みなさんにお願ひがあります。5ドル程度でかまいませんので、どうかバーン村のために募金をしてほしいのです。

この村は大変貧しく、食事も満足にできない子供が大勢います。学校にいたっては、ほとんど何の勉強道具も、設備もありません。

みなさんが少しずつでも寄付してくだされば、日本からバーン村に学習資材を送ることができます。

どうか、ご協力をお願いします。

アイ子

.....
ココがポイント！
事前研修で学んだ「バーン村にて」のワーク学習は開発途上国への援助について考えさせる格好の学習であると思い、第一回の山場として取り入れた。
・「寄付する金額は？」
・「この活動に賛成か、反対か？」
・「活動をよりよくするためのアドバイスは？」
以上3点について考えさせた。
.....

生徒からはさまざまな意見が出た。寄付する金額の幅は0～20ドルだったが、「寄付しない」という生徒が半数であった。寄付しない理由としては、「信用できない」「日本人の評判を逆に落としかねない」「村の人間が自立できなくなる」というものが見られた。

「活動をよりよくするためのアドバイス」では、「募金で物資を送るのではなく、技術や経験を伝えるために使う」「現地に立て札を立てるのではなく、日本でネットなどを通して募金をつのる」

など、多様な考えを引き出すことができた。

2 時限目：【ブータンの医療事情を紹介し、「医療費無料」のメリット・デメリットについて意見を述べさせる。ブータン人の考え方とゴミ問題を紹介し、「なるようになる」という発想のメリット・デメリットについて意見を述べさせる。】

(参考スライド)

○ 日本の医療制度と、ブータンの医療制度の比較

- ・ 医療費について
- ・ 人工透析の設備について
- ・ 集中治療室について
- ・ 医療に対する国民の考え方について

驚くべき、ブータンの病院のサービス！！

外国人 でも無料！

「高額医療」でも無料！

例えば、

「人工透析」

「ガン治療」

「集中治療室」




日本の医療は技術・設備のレベルが高く、救命率が高い。しかし、医療費が高額である。対してブータンの医療は全て無料だが、衛生面・設備面に問題が多い。このような現状を伝え、ディスカッションへの導入とした。

○ ディスカッション テーマ①

目標
はつきりとした意見・理由を
のべて、話し合いをする。

話し合いのテーマ①

病院は、有料であるべきか？それとも、無料にするべきか？

ココがポイント！

本校生徒の現状から考えると、様々な意見を積極的に出し合えるようなディスカッションを成立させることは難しい。よって、左画像のような二項対立的な命題を提示することで意見を出しやすくさせた。また授業者がパネラーとなり、全ての生徒に発言の機会を与えるような展開を心がけた。そして、「意見と理由をセットで述べること」と学習目標を単純化し、徹底することで生徒が達成感を持てるよう工夫した。

ほとんどの生徒が「有料であるが、安心して医療を受けられるほうがいい」という意見であった。それに対して「じゃあ、お金が払えない人が病院にいけない場合はどうするのか？」と、反対の立場からの質問を投げかけたところ「その場合には税金から支出すれば良い」「それは稼げない人の自己責任」など、さまざまに意見が分かれた。

(参考スライド)

○ ブータン人の考え方と、ゴミ問題について

「これでいいのだ」「なんとかなるさ」という発想がもたらす安心感と、反対にゴミ問題に対する認識の甘さなどを紹介し、次のディスカッションへの導入とした。



○ ディスカッション テーマ②

目標
はつきりとした意見・理由を
のべて、話し合いをする。

話し合いのテーマ②

「これでいいのだ」
「これではよくない」
今、日本に必要な
考え方はどちらか？

「なるようになる」「くよくよししない」とは、人生を生きる上でとても大事な考え方である反面、「目の前にある深刻な問題を見ようとしなない」とも取れる場合がある、ということをブータン人の運命観や時間感覚、そしてメラカ処分場などの紹介を通して説明した。

テーマに対する生徒の意見は、「『これではよくない』が大事、国としての進歩がなくなる」「規律を大事にしつつも、ゆとりや余裕を持つ心構えが大事なのではないか」という声が上がった。

- 3 時限目：【発展が進んできたブータンに生まれた問題点を紹介し、「幸せと開発は両立するか」という問いについて考えさせる。発展学習として島嶼地区である伊豆大島の開発について意見を述べさせる。】

※本時は「東京都教師道場 国語科研究授業」という扱いで行った。

○ 導入

- 民族衣装「ゴ」の紹介
- 前回までの内容確認

「GNH」とは・・・？

「Gross National Happiness」
= **国民総幸福量** のこと。

（観
点）

- 1 「持続できる**経済発展**」
- 2 「**環境保護**」
- 3 「**伝統文化の保護**」
- 4 「**良い政治**」

ココがポイント！

実際に「ゴ」を生徒に着させてみることで興味喚起をはかった。それから、本時のキーワードである「幸せ」の推奨が国家政策「GNH」であることを再確認し、「ゴ」の着用がGNHの観点の一つである「伝統文化の保護」につながっていることを導入として伝えた。

○ 展開1 スライドを使った内容の確認

- 憲法とGNHについて
- GNHと教育について（あらゆる学習を『幸せ』に結び付けて行っていること）
- 仏教と幸せについて（『足るを知る』『幸せにはリミットが必要だ』という発想の紹介）

例えば…

- 「数学でグラフの共有点を学習するとき、**誰かと何かを共有することの大切さ**を学ぶ」
- 「授業として**瞑想**を行う」
- 「国語で仏教説話を学習し、**仏教の精神**を学ぶ」などです。

ブータンの人々はみんな、お坊さんに質素に生きることの大切さを教わります。

足るを知ること。

幸せには **リミット(制限)** が必要だ。

私自身、この二つの言葉はとても心に残りました。物が無い学校でも、子供の笑顔はこんなに豊か。

- 開発の推進とODAからの脱却について（売電、換金農業、英語教育などの紹介）
- 開発における問題点（ゴミ問題、母国語への興味の低下、都市部における幸福度の低下など）

5. 「英語教育」

…ブータン人はとても語学能力が高く、2～3カ国語話すのが当たり前！ガイド業、他の国への出稼ぎ講師、さまざまな収入の可能性がある。

ガイドのベマさん、ゾバさん

英語教育も、良いことばかりではありません。今は母国語であるゾンカ語で書かれた経典を読めることよりも、英語を話せるほうが重要視されてしまう現実があります。経典は、「幸せ」を人々に伝える最高のテキストだというのに。

先ほど、お坊さんが言った「**幸せにはリミットが必要だ**」という言葉を紹介しました。「もう十分」ということを知ることが、幸せを感じるためには大切なことなのです。

しかし、「開発」とは、今よりも良いものを求め続けることです。言うなれば、「**リミットを越えよう**」とする取り組みのことです。

実際に、ブータン国内ではもっとも開発が進んでいる首都ティンブーでは、**幸福度が格段に低くなっている**という現実がありました。

授業者自身が研修旅行中に感じた最も大きな疑問となった、「幸せと開発というのは、両立するのだろうか？」という問いを生徒に投げかけ、ディスカッションへの契機とした。

○ ディスカッション テーマ①

**「幸せ」と「開発」
どちらを優先して
考えるべきなのか？**

話し合いのテーマ①

目標

はつきりとした意見・理由を
のべて、話し合いをする。

「開発が優先されるべき」と答える生徒が目立ち、「幸せ」を支持する生徒は少なかったことが印象的だった。

理由は「地理関係から考えて、開発して国力を上げないと侵略されてしまう」「こんな状態で幸せなはずがない」「開発で技術力を上げ、幸せを作り出せるような技術を生み出せばよい」などが上がった。

「幸せ」を支持した生徒は、伊豆大島出身の女生徒であった。この結果は、次のディスカッションテーマにも反映していく。

○ 展開2 スライドを使った内容確認

- 伊豆大島とブータンの類似点（さまざまな開発が必要だが、環境や今までの生活も大事）
- 伊豆大島の概要確認
- 開発における弊害
- 地域ごとの利害関係やしがらみの意識

これまで、「開発途上国」であるブータンで見たさまざまな問題点について考えてきました。これをふまえて、もう一つ考えてもらいたいことがあります。

「さまざまな開発・発展が必要」「でも環境や今までの生活も大事」

同じような課題を持つところ、みなさんがよく知っている場所で思い当たりませんか？

そして、あまり観光化の開発をすすめるのも考えもの。南部にある「砂の浜」という海岸にはウミガメが産卵にやって来るのですが、「ここを観光スポットにしよう！」と、**行政が夜間照明を設置したところ、ウミガメが来なくなってしまった**そうです。




また、一周50kmほどの大島の中にも、「地域ごとのライバル意識」があり、「利害関係」や「しがらみ」がどうしてもついて回るのだとか。

だから、何かを始めるときに「島にとって、何が**必要な**のか？」という**共通理解を得ることがとても難しい**そうです。



他にも「産業が少なく、優秀な若い人の島離れが進んでいること」「新しいもの、公的でないものに対する警戒心が強いこと」などの問題点を紹介し、「大島と、そこに住む人たちにとって本当に必要なものとは何か？」という問いを投げかけて最終ディスカッションへの導入とした。

○ ディスカッション テーマ②

大島の「幸せ」にとって、「開発」は必要か？

話し合いのテーマ①

目標

はつきりとした意見・理由を
のべて、話し合いをする。

ココがポイント！

- 東京都大島支庁の方から、事前に伊豆大島における開発の課題点を取材することでリアルな問題提起ができるよう努めた。
- リアクション・ペーパーを使い、発言の内容を記録させることでディスカッションの流れを把握しながら授業に参加できるようにした。
- また、発言の記録を参考にすることで、「各クラスにおける、テーマに対する結論」を導き出しやすいよう留意した。

研究授業として行ったクラスの結論は、「島の良さを残しながら、他者の幸せのことも考えられるような開発が必要」というものであった。この結論は、「幸せ」と「開発」で話し合いが行き詰ったときに、「視点を変えて、他の誰かのためになることが幸せ、という方向からも考えてみてはどうか？」というこちらの示唆によるところも大きかったと思われる。

その他のクラスの結論は、「他の何者かを幸せにすることが自分の幸せだから必要ない」、「外から来た人の幸せを大事にするが、昔からの島を大事にする」というものが出た。

〔6〕児童・生徒の反応/変化

上記ディスカッションで非常に興味深かったのは、「開発」を支持する生徒は本土出身、「幸せ」を支持する生徒は大島出身と、かなり明確に結果が分かれたことである。これは、開発の対象がブータンの場合でも大島の場合でも同じであった。

伊豆大島は東京本土に比べて、娯楽施設などの都会的な環境が乏しい。反面、梅や山など豊かな自然環境があり、大島で生まれ育った生徒はこうした環境で充足している。しかし東京本土で育ち、高校から大島に移ってきた生徒にとっては物足りなさを感じるというのが本音であろう。ブータンでも発展前と後、そして都市部と地方では「幸せ」というものに対する意識がかなり違っていただろうであるが、日本でも類似した条件下ではほぼ同様の結果が出た、というのは印象深い反応であった。

〔7〕授業実践の成果と課題

今回の学習のまとめとして、「ブータンの授業から学んだこと」というテーマで作文を書かせた。

「お金の援助をしたあとに、持続性のある技術援助が大切だ」「ブータンの田舎は物が少ないところなのに、みんな仲良く支えあっているところに心がぼかぼかした」などの感想が見られた。持続可能な発展のための援助がなぜ重要かということや、またブータンが保っている人々の心のつながりを日本も忘れてはいけないことを伝えられた点、そして上記のように生徒各自が「幸せ」について本音で議論する機会を設けられた点は大きな成果となった。

課題として残った点は、「調べ学習」など生徒が主体的かつ発展的に国際理解を深めようとする学習が実践できなかったことである。また、「幸せ」「ディスカッション」というテーマに焦点を絞って学習を展開したので、ブータンと日本との歴史的なかわりや素晴らしい教育制度などにほとんど触れることができなかった。今後、国際理解教育と向き合うときには是非ともこのような面にも触れてみたい。

〔8〕参考文献(引用文献・参考資料)

- ・ 『幸福王国ブータンの知恵』齊藤利也・小原美千代 光文社
- ・ 『ブータン・これでいいのだ』御手洗瑞子 新潮社
- ・ 『これからの正義の話をしよう』マイケル・サンデル 早川書房
- ・ 『グループディスカッションで学ぶ社会学トレーニング』宮内泰介 三省堂

〔9〕使用教材(写真／図などの実物)

〔5〕で載せたスライドを参照

〔10〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

私が今回の教師海外研修に応募した動機は、「専門教科である国語と国際理解教育・開発教育を複合的な視点で実践すること」であった。任意で受講している東京都主催の授業力向上研修と関連させ、従来の国語教育という枠を飛び越えた可能性を追求してみたかったのだ。

実際に授業実践を終えてみて、その思惑はおおむね成功であったと思う。定番教材を使い板書で授業するという形式を離れ、生徒にとって未知の領域である開発途上国を教材として表現力や問題解決能力を培えるような新しいスタイルの原型が見出せたように感じた。

しかし、今回の研修はそういった教授法以上のものを私にもたらしてくれたように思う。個人のバックパッカーとしてたくさんの国を旅したことはあるが、今回のように公的な性格を帯びた団体の研修は初めてのことだった。出発の前までは他人同士であったメンバーが、それぞれの目的と役割のもとお互いに助け合って道中を共にした。そして、最終的には各自が得たものを一つにまとめブータン政府とJICAに報告する、という一連の経験は私にとって貴重な輝かしい財産となった。JICAと現地でお世話になった方々に感謝し、今後の国際理解教育の普及と自分の人生に生かしていきたい。カディンチェラ！